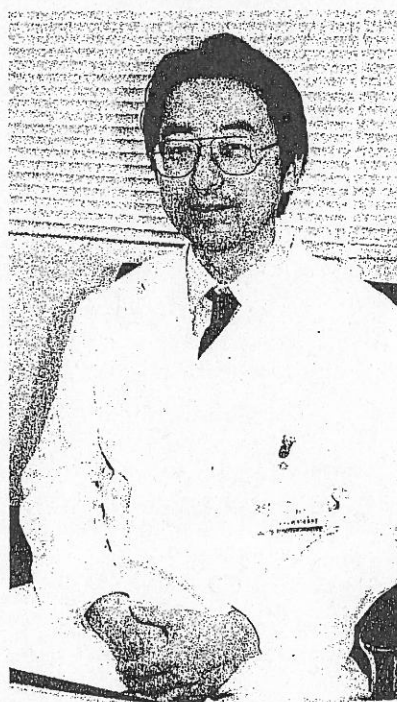


2009. 6. 6

ピープル



# 徳島で難病医療提供

四国で初めて開催された特定疾患（難病）・炎症性腸疾患の市民公開講座で、世話人を務めた徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部教授の高山哲

治さん(49)は徳島市南佐古八番

は少なく、県内の炎症性腸疾患患者の多くが大阪や兵庫の病院に通い治療を受けているという。高山教授が徳島大学に来て1年半。近くで専門医の治療が受けられると、10人ほどの患者が通う。講座を機に訪れた患者もいるそうだ。

若い人も多く、今後も患者の増加が懸念されている。若手の医師の関心を高め、専門医を増やすことも重要な課題だ。「患者が県外に足を運ばなくても、地元で質の高い医療が提供できれば」。都市、地方にかかわらず、高度な診療が受けられる平等な社会の実現を目指す。